

特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果、世界的位置付けなど。

(評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容

< 特筆すべき教育活動 >

なし

< 特筆すべき研究活動 >

○ 未来医工学治療開発センター

橋渡し研究（トランスレーショナル・リサーチ）支援基盤の強化のため、プロジェクト管理やシーズの評価・選定体制の人的体制や研究機器等の整備を進めながら各シーズに関して支援を行うとともに、オープン・ラボスペース（旧西病棟）の施設整備を年度末に完了した。具体的な活動状況は以下のとおり。

(1) 臨床試験の管理運営支援の強化

データセンターにおいて臨床研究を計画・実施するための標準業務手順書を作成し、GCP適格性調査の結果を踏まえて最終整備を行った。実際の研究支援に加えて、臨床研究のプロトコル作成やデータの解析等に関するコンサルティングを継続して実施し、より適切な品質の、かつ信頼性の高い臨床研究の実施に寄与することができた。また、これらの試験を通じて、試験の品質管理・品質保証体制の構築、人材の育成を引き続き進めている。

(2) GMP基準での試験物製造の支援

CPCの拡張を行い新たに2ユニットの区画を整備し、移植医療シーズ（膵島移植）に対応できる施設とした。拡張した区画に試験物製造管理に必要な機器を導入し、これまでに整備した区画と併せて施設内環境と機器の稼働状態をモニタリングできる体制とした。衛生管理基準・製造管理基準・品質管理基準を改訂し、拡張した区画も含んだ基本的な運用体制を整備した。

また、年度定期ヴァリデーション及び年度定期サニテーションに関しても、拡張区画を含め施設全体として平成22年3月期に実施した。

(3) 橋渡し研究支援を行うための人材育成機関の強化・整備

医科学専攻大学院コース（博士課程）としてTR人材養成プログラム『TR特論』『TRトレーニングコース』を実施し、人材育成を行った。大学内外で各種セミナーやシンポジウムを企画運営した。講義内容は、東北大学インターネットスクール（ISTU）に収録し、適宜閲覧可能と

した。データセンターおよび試験物製造管理、臨床試験の管理運営に関して、データマネージャー2名を新たに採用し、OJTに基づいた人材育成を実施した。

(4) TRセミナーの開催 [全11回、延人数207名]

法的規制・知的財産・研究倫理等幅広い内容で講義を行った。社会人大学院生などに配慮し、講義内容はISTU（東北大学インターネットスクール）に収録し、出席出来なかった人も閲覧にて受講可能とした。

(5) 戦略的シーズ開発支援の強化

シーズ情報の管理を、開発段階（探索的段階とR&D段階）に分けて行う体制を確立した。開発段階に応じて必要な支援や開発戦略のスケジュール管理を行うために、R&D段階のシーズについては開発戦略会議を進捗状況に応じて開催した。センター内シーズ審査・評価システムに関しては、シーズの公募から、シーズ評価委員会によるシーズの選定、評価システムを確立した。

(6) 産学連携・知財創設に関する支援

センター内に企業も使用可能なコラボスペースを整備した。入居予定企業が3月31日に現在1社。そのほか平成21年度中に2社5件の開発案件を学術指導契約のもとに治験デザインの作成支援、プロトコル作成支援、前臨床試験のデザイン支援や承認申請方法の助言等を開始した。

また、日本弁理士会東北大学TRセンター支援ワーキンググループを形成し、「蛍光計測によるアルツハイマー診断」と「医療用ステントの表面処理加工技術」に関する特許調査を実施した。その他本部知財部と協力して「ガイドワイヤーに関する特許調査」も実施した。

<特筆すべき社会貢献活動等>

○ 高度救命救急センター

宮城県、仙台市からの強い要望に基づき、平成18年10月に高度救命救急センターを東病棟1階に設置した。センターは、仙台市等の他の救命救急医療機関と連携をとりつつ診療機能を分担しながら、先進的高度救命救急医療を実践し、宮城県における救急医療体制の構築に貢献した。また、救急専門医を養成するための救急医療・救急医学研鑽の場を構築した。

○ 地域医療連携センター

「病・病」、「病・診」連携強化に向けた取り組みとして、平成16年度に院内施設として地域医療連携センターを設置した。他の医療機関からの患者の紹介をスムーズにするための予約システムの運用、退院への早期支援等、適切な医療を提供するために院内及び院外の関係機関（地域の保健・医療・福祉機関）等との密接な、また効果的な連携関係を構築し、地域医療に貢献した。

○ がんセンター

がん医療については、平成18年8月に宮城県がん診療連携拠点病院の指定を受け、院内にがんセンターを設置した。センターは、地域に対して（1）研修事業、（2）ネットワーク事業、（3）院内がん登録事業、（4）がん相談支援事業および（5）普及啓発・情報提供事業を実施している。

センター内に腫瘍評議会、化学療法センター等を設置し、最適な修学的治療方針を患者に提示し、エビデンスを得るための臨床研究を進め、指導的ながん専門医あるいはがん医療に特化したコ・メディカルの育成、および治療成績の公表や啓発活動、相談受付を行っており、地域におけるがん医療の向上に貢献した。

○ 東北大学医学部地域医療支援機関

地域の医療機関からの多様な要請に対応するため、これまで各医局単位で対応してきた地域医療の諸問題、特に医師配置に関する要請について、窓口を一本化するために大学病院内に支援機関を設置し、地域の医師不足問題解消に貢献した。

○ 南相馬市立病院と医師確保の協力に関する協定の締結

南相馬市立病院専門医研修資金貸与事業を活用した医師確保を図るため、平成21年12月10日に協定を締結し、南相馬市の地域医療の機能維持に貢献した。

○ インフルエンザ対策

感染管理室では、医学系研究科 感染制御・検査診断学分野とともに、新型インフルエンザに関する宮城県・仙台市に対して、今回のパンデミックインフルエンザの画期的な対応として全国的にも注目をあつめた“仙台方式”実現を含む施策助言、市民・企業向けの公開講座、ポスター作成、地域医療機関向け講義、現場での直接的な指導啓発など感染対策支援、WHOへの専門家派遣を行った。

○ 東北感染制御地域ネットワーク

同ネットワーク主催による第2回東北感染制御ネットワークフォーラムを平成21年8月29日、30日に開催した。本フォーラムは、いろいろなトピックス、レクチャーやシンポジウム、ワークショップなど、医師、看護師、薬剤師、検査技師、介護スタッフなどの実際の医療現場で感染症対策に対応する医療従事者のみならず、病院や高齢者・介護施設の管理者、さらに、国、地域自治体の医療保健担当者などが一同に参加し、「感染管理・感染予防」、「感染症の診断・治療」、「感染症の疫学」、「アウトブレイク対応」、「感染症に関する情報提供」、等の感染症に関する総合的な「マネジメント・危機管理」に関する最新情報を広く共有化し、討議する場となっている。

○ 市民公開講座

東北大学病院では、一般市民に本院の診療内容を広く公開し、理解と支援を得ることにより、地域医療連携意識を啓発し、機能分化の促進につなげることで、及び市民の理解と支援を得て、より高度な医療を展開し、研究・教育に反映することを目的に、平成20年度より市民公開講座を開催しており、平成21年度においては、6月28日（日）は「消化器病から市民を守る」、10月17日（土）は「女性の病気を知り母性を守る」と題して2回開催した。